

## 2品種合計1800ケース出荷

～無袋りんごベトナムへ～

当JAは1月中旬から下旬、無袋りんごをベトナムへ出荷しました。品種は「ふじ」と「王林」の2品種。無袋りんごの同国への出荷は初めてとなります。同国の旧正月「テト」の贈答需要に合わせ、約1800箱（1箱/10kg）を出荷しました。

同国への出荷は、病害虫対策として有袋栽培のみ認められていましたが、一部法改正により園地登録や冷蔵施設で一定期間低温処理をするなどの条件を満たし、検査に合格した無袋栽培のりんごであれば出荷できるようになりました。

当JAりんご野菜課の職員は「県産りんごの評価向上と、今後の販路拡大に期待したい」と話しました。



トラックに積まれたりんご



登録園地の番号が記載されたケース

## 米生産者4人を表彰

～常盤地区良食味米競技会表彰式～

常盤基幹支店管内のときわ良質米生産部会（三浦浩二部会長）は1月29日、令和2年10月に行った常盤地区良食味米競技会の表彰式を開き、部会員やJA関係者ら約50人が出席しました。部会員4人が入賞し、青天の霹靂を出品した大崎喜正さんが最優秀賞と町長賞を受賞しました。



最優秀賞と町長賞を受賞した大崎さん

## 雪の中でじっくり熟成

～雪室りんご準備作業～

りんご部会山一支部の役員4人は1月26日、山形支店管内の山一農産物出荷施設で雪室りんごの準備をしました。りんご「サンふじ」310箱（1箱/20kg）を敷地内の雪で覆いました。

同支部役員は「雪の中で貯蔵することで熟成し、甘さが増す。おいしい雪室りんごにするために管理を徹底する」と話しました。



雪で覆う作業をする部会員